

28. 良質・多収で晩播適性に優れる大豆新品種候補「四国3号」

1. 背景とねらい

奨励品種「サチユタカ」は、多収で耐倒伏性及び加工適性に優れるが、ダイズモザイクウイルスによるモザイク病に弱く、裂莢しやすいために収穫適期が短い。また広島県の低標高地における好適な播種時期は6月中下旬であるが、梅雨による播種作業環境の悪化を避けるために7月中旬以降の播種となりやすい。この場合、生育量が不足して減収するだけでなく、機械収穫では着莢高の低下によって収穫ロスが発生する。そこで、「サチユタカ」との代替や収穫作業分散が可能で晩播適性の高い系統を選定する。

2. 技術の内容

「サチユタカ」と比較した「四国3号」の特性は以下のとおり。

- 1) 生育は、いずれの播種期においても開花期が2日、成熟期が10日程度遅く、「サチユタカ」との収穫作業分散が可能である。青立ちの発生は同程度で、倒伏は標準播でやや多いが晩播では同程度である。最下着莢高は短莖化する晩播でも5cm程度高く、機械収穫適性に優れる(表1, 図1)。
- 2) 収量は、晩播条件でも多収で(表1, 図2)、百粒重は標準播でやや小さいが、晩播では同程度であり晩播適性が高い(表1)。
- 3) 子実外観品質は、しわ粒及び裂皮粒の発生が少なく、極めて良好である。褐斑粒が少なく、ダイズモザイクウイルスによるモザイク病に強い。検査等級は、同程度で安定的に1等の上であるが粗蛋白含有率は低い(表1)。
- 4) 味噌加工適性に優れる(表1)。
- 5) 以上、「四国3号」は「サチユタカ」と比べて10日程度晩熟であり、良質かつ多収で機械収穫適性に優れ、高い晩播適性および味噌加工適性を有する有望系統である。

3. 今後の計画

- 1) 「四国3号」は(独)近畿中国四国農業研究センターの育成系統であり、平成23年度中に品種登録申請の予定である。
- 2) 「四国3号」は平成23年度に現地試験および実需者からの意見を踏まえ本県奨励品種採用の可否を判断する。

(栽培技術研究部)

4. 具体的データ

表1 東広島市八本松町で栽培した「四国3号」の生育および収量（標高224m）

播種時期	品種・系統名	開花期 (月.日)	成熟期 (月.日)	倒伏 程度 ²⁾ (0-4)	青立ち 株率 (%)	主茎 長 (cm)	最下 着莢高 (cm)	子実 重 (kg/a)	同左サチ ユタカ比 (%)
標準播 (6月中旬)	四国3号	8.03	11.03	1.6	3.3	72	21.6	42.0	108
晩播 (7月中旬)	サチユタカ	8.01	10.23	1.0	4.0	53	15.4	39.0	100
	四国3号	8.22	11.11	1.8	5.1	55	13.4	38.7	106
	サチユタカ	8.20	11.01	1.8	9.3	39	8.8	36.6	100

注 1) 標準播は2004～2010年の6ヵ年，晩播は2008～2009年の2ヵ年の平均値

2) 倒伏程度は0(無)～4(多)

表2 東広島市八本松町で栽培した「四国3号」の品質および味噌加工適性（標高224m）

播種時期	品種・系統名	百粒 重 (g)	褐斑 粒率 (%)	裂皮 粒率 (%)	しわ 粒率 (%)	検査 等級 ²⁾ (1-7)	粗蛋白質 含有率 (%/d.w)	味噌加工 適性 ³⁾ (1-5)
標準播 (6月中旬)	四国3号	32.8	0.0	0.0	0.0	1.2	42.7	5
晩播 (7月中旬)	サチユタカ	34.4	0.1	0.4	0.8	1.7	45.8	4
	四国3号	35.5	0.1	0.0	0.0	1.0	43.7	-
	サチユタカ	35.8	0.9	0.1	1.9	1.5	47.2	-

注 1) 表1に順じる

2) 検査等級は1(1等上)～7(規格外)で2004～2009年が広島農政事務所，2010年が広島県JA農産物検査協議会調べ

3) 味噌加工適性は1(悪)～5(良)で2008年に広島県内M社で評価



図1 収穫期の「四国3号」の草姿
(左：四国3号，右：サチユタカ)

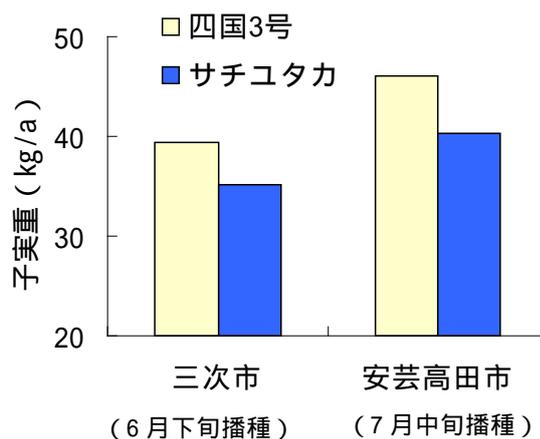


図2 現地圃場における「四国3号」の子実重
(2009～2010年の2ヵ年平均値)